

第6回調査
6月1日現在の就職活動状況
1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は62.3%。先月調査(5月1日現在)よりも16.5ポイント伸び、60%を超えた。6月の内定率が6割に乗るのは3年ぶりで、リーマン・ショック後最初の就職戦線であった2010年卒者の数字(62.8%)とほぼ同率にまで回復した。

今期は採用広報開始が2カ月遅くなった結果、4月以前に内定出しをする企業は少なくなったが、4月、5月と順調に選考が行われ、2カ月の短縮は、内定率という点ではマイナスに影響しなかったようだ。企業の採用意欲の高さを裏付けるデータと言える。但し、内定率を男女別に見ると、文理とも女子は男子より低く、依然厳しさが残る。

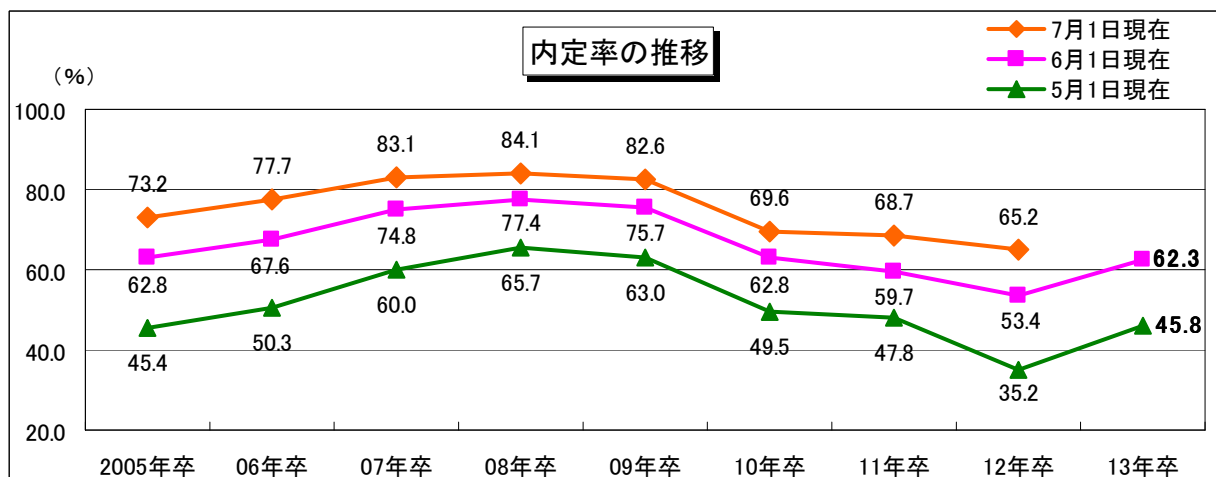
内定取得学生のうち就職活動を終了したのは74.0%。モニター全体を分母にしてみると(次ページ円グラフ)46.1%となる。一方で、「内定を得たが就職活動継続」と「内定なし」を足し合わせた「活動継続者」は、50.8%。モニターは、この6月で折り返し地点を迎えた。

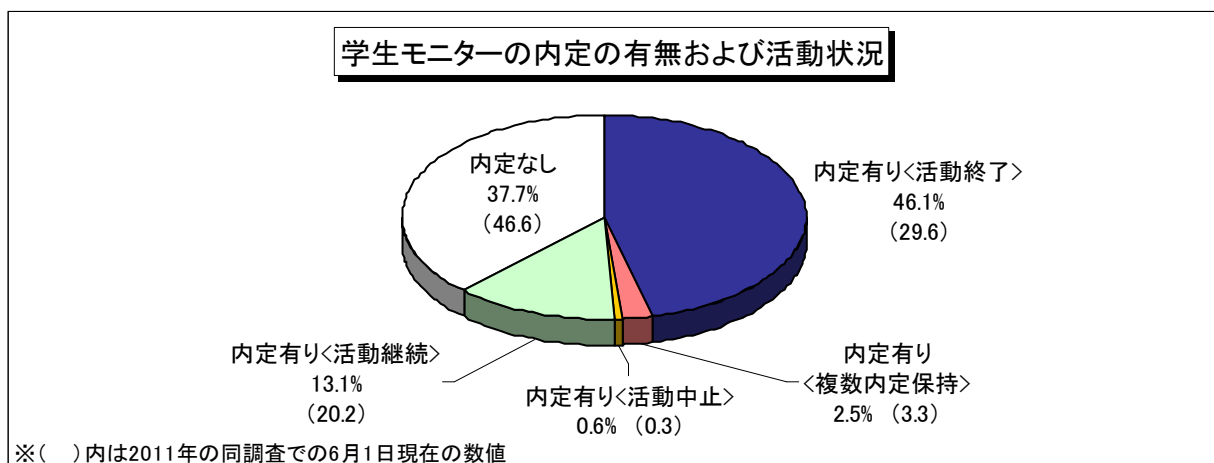
6月1日現在の内定の状況

*「内定」には、内々定を含む (%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
内定有り		62.3 (53.4)	63.9 (55.4)	58.9 (52.6)	64.9 (53.4)	58.5 (48.7)	67.8 (61.3)	57.9 (47.0)
内定なし		37.7 (46.6)	36.1 (44.6)	41.1 (47.4)	35.1 (46.6)	41.5 (51.3)	32.2 (38.7)	42.1 (53.0)
内定社数(平均/社)		1.9 (1.7)	2.0 (2.0)	1.8 (1.6)	1.8 (1.7)	1.7 (1.4)	1.8 (1.7)	1.9 (1.8)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	74.0 (55.4)	72.5 (44.1)	74.6 (54.2)	76.4 (66.9)	71.0 (67.2)	78.4 (57.5)	70.0 (53.2)
	活動は終了したが複数内定保持	4.1 (6.1)	4.1 (9.8)	4.9 (5.9)	2.8 (1.9)	5.8 (5.2)	3.7 (6.5)	4.4 (5.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.9 (0.5)	0.4 (1.0)	2.2 (0.0)	0.9 (0.6)	0.0 (0.0)	1.1 (0.7)	0.8 (0.4)
	就職活動継続	21.0 (37.9)	23.0 (45.1)	18.4 (39.9)	19.9 (30.6)	23.2 (27.6)	16.9 (35.3)	24.8 (40.7)

※()内は2011年の同調査での6月1日現在の数値





2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

6月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で85.4社。前年同期より約1割減だが、以後の活動量はほぼ前年並みで、例えばエントリーシート提出社数は22.2社で前年と同水準。面接試験などの選考試験に関しても、前年と大きな変化は見られない。セミナー・説明会参加社数の合計は55.8社から54.0社と、微減にとどまる。

今期は就職活動開始が2カ月遅く、その分、就職活動期間が短くなったが、それに比例して活動量が減るということはなく、密度の濃い、スケジュール的にハードな就職活動が展開されたとと言える。

6月1日現在の就職活動の状況

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
エントリー社数 (社)	85.4	93.4	94.6	94.5	70.4	70.8	71.9	96.1
今後のエントリー予定社数 (社)	7.8	6.4	8.4	9.7	6.3	5.0	6.1	8.9
セミナー・説明会参加社数 (社)	54.0	55.8	59.8	57.0	47.8	43.4	50.0	57.2
企業単独開催のもの (社)	24.7	26.8	27.7	26.8	20.4	19.9	21.5	27.2
合同開催のもの (社)	17.1	17.6	18.4	17.5	15.8	15.0	15.3	18.5
学内開催のもの (社)	12.3	11.4	13.7	12.6	11.5	8.5	13.2	11.5
OB・OG訪問人数 (人)	4.5	4.7	5.2	4.4	3.6	3.2	4.4	4.5
エントリーシート提出社数 (社)	22.2	22.9	24.7	23.4	19.5	17.7	21.2	23.0
筆記・WEB試験受験社数 (社)	14.9	15.1	17.3	15.1	12.7	11.4	14.7	15.0
面接試験受験社数 (社)	10.6	10.4	12.5	11.1	9.2	7.2	10.4	10.8
集団討論受験社数 (社)	4.8	4.7	5.6	4.9	4.1	3.8	4.2	5.3
工場見学社数 (社)	3.0	2.4	—	—	3.3	2.2	3.2	2.7
研究所見学社数 (社)	1.9	1.8	—	—	1.9	1.7	2.0	1.8

※「今後のエントリー予定社数」「選考中および受験予定の企業数」は、就職活動継続者のみ回答

【学校推薦の申し込み状況】

(%)

	2013年卒	2012年卒
申し込んだ	25.3	24.1
まだ申し込んでいない	11.1	14.7
申し込む予定はない	63.6	61.2

【推薦利用者の選考試験受験の有無】

(%)

	2013年卒	2012年卒
選考を受けた	90.8	75.8
まだ受けていない	3.7	22.1
学内選抜に漏れた	5.5	2.1

3. 就職活動継続者の今後の見通し

内定者も含め6月1日現在で就職活動を継続している学生(モニター全体の50.8%)に、選考中およびこれから受験する予定の企業(持ち駒)の数を聞いたところ、平均して3.4社と先月調査(5.1社)より1.7社減っていた。前年同期(4.0社)と比べても0.6社少ない。

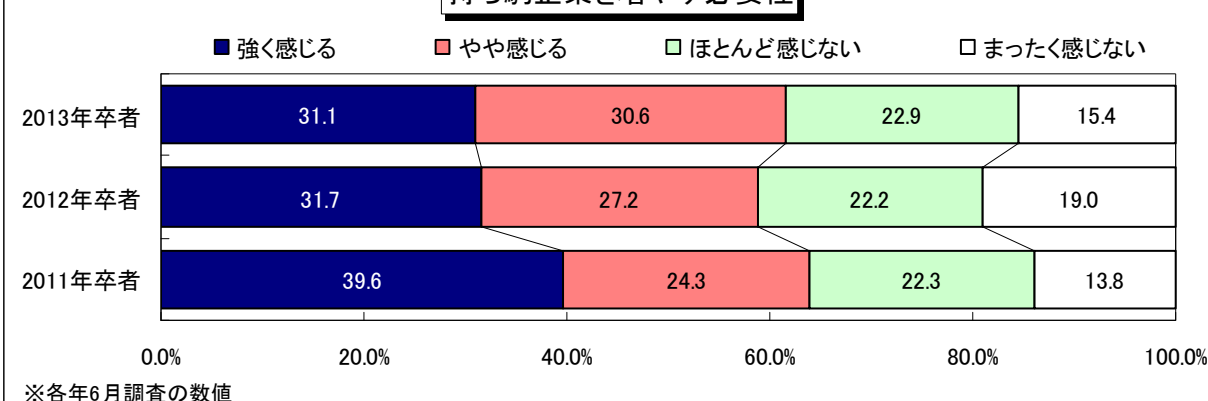
「持ち駒を増やす必要性」については、「強く感じる」31.1%、「やや感じる」30.6%で、あわせて6割が持ち駒を増やす必要性を感じている。

そこで、「強く感じる」「やや感じる」と回答した学生に、どのような方向で増やしたいと考えているか(持ち駒企業を増やすために見直すこと)を重ねて聞いたところ、「志望業界の見直し」が65.8%と最も多く、「志望職種の見直し」(41.0%)、「志望企業の規模の見直し」(32.1%)と続く。前年、前々年と比べてもこの傾向に変化はなく、就職戦線が事実上の後半戦へと移る中、視野を広げ、より現実的な選択肢へと軌道修正を図ろうとする様子が見えてくる。

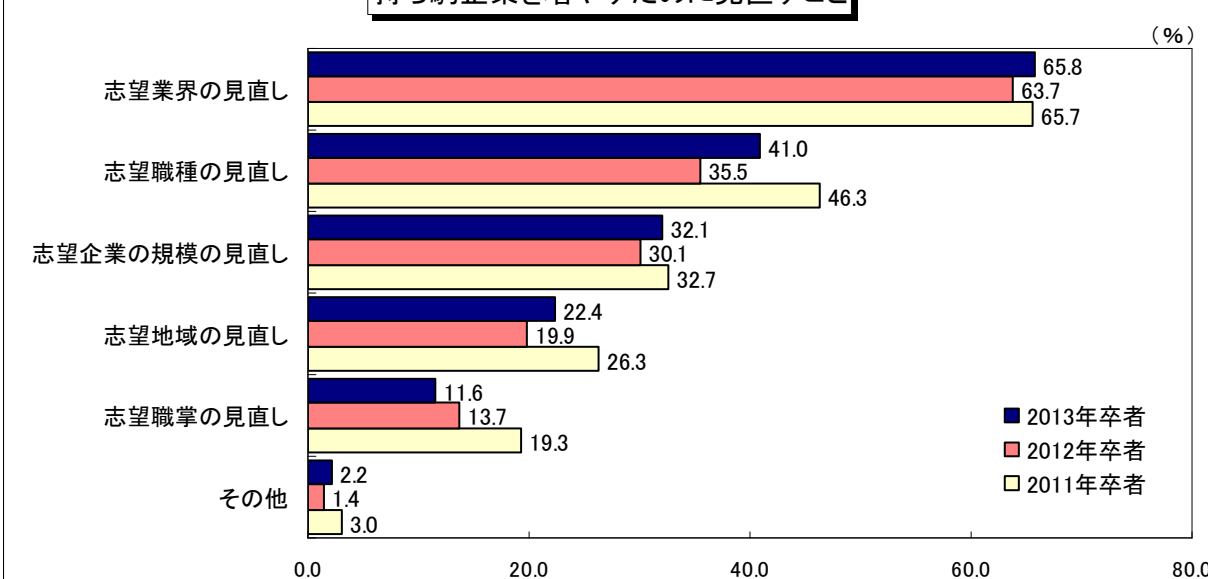
選考進行中および今後受ける予定の企業(持ち駒)社数

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
6月1日現在	3.4	4.0	3.7	3.7	2.8	3.3
5月1日現在	5.1	6.2	5.3	5.3	4.7	4.8
4月1日現在	8.6	9.6	9.7	9.7	6.9	6.8

持ち駒企業を増やす必要性



持ち駒企業を増やすために見直すこと



4. 就職決定企業に決めた理由

就職先を決めている学生に、決め手となった理由を選んでもらったところ、前年 1～3 位だった項目が揃って数字を下げた。とりわけ「仕事内容が魅力的」は例年圧倒的に数値が高く、他の項目を引き離していたが、今回は前年より 10 ポイント以上下げている。仕事内容や職場の雰囲気は、社員と直接触れ合うなどして企業研究を熱心に行わなければ感じ取れない情報だ。こうした項目が下がり、代わりに「将来性がある」「有名企業である」「大手企業である」などの表面的で比較しやすい項目が数値を上げているのは、安易に得られる情報をベースに企業研究をしていた学生が多かったからではないだろうか。2 カ月間短縮し、十分な時間を取れなかったことが、こうした指標からもうかがえる。

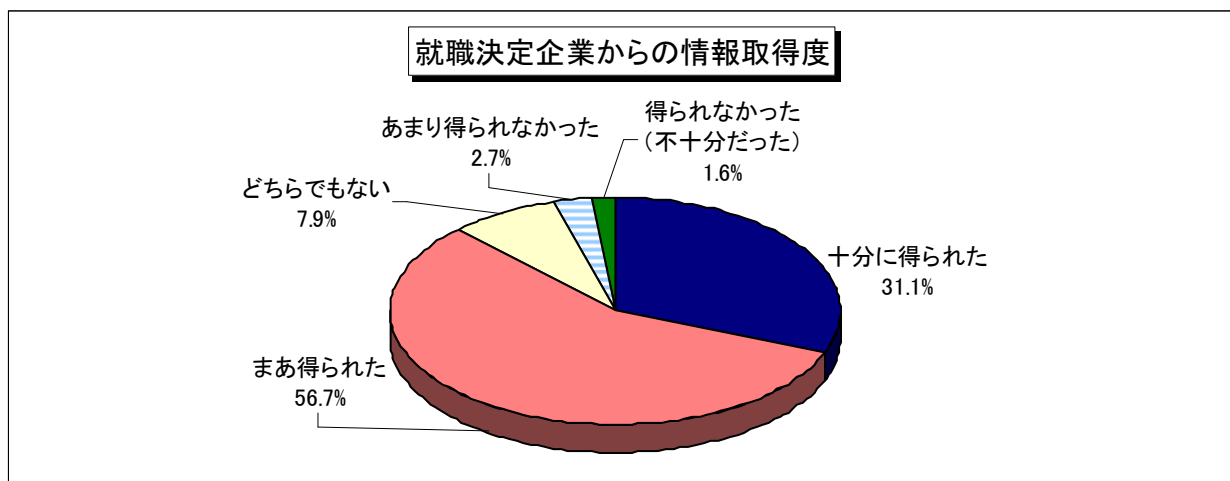
就職決定企業に決めた理由

		(%)		
		2013年度	2012年度	ポイント差
1	仕事内容が魅力的	31.4	42.3	▲ 10.8
2	社会貢献度が高い	28.9	32.5	▲ 3.6
3	職場の雰囲気が良い	28.7	35.6	▲ 6.9
4	将来性がある	25.8	16.4	▲ 9.4
5	有名企業である	24.3	16.4	▲ 7.9
6	大企業である	22.5	16.1	▲ 6.4
7	給与・待遇が良い	21.6	19.6	▲ 2.0
8	業界順位が高い	21.4	17.7	▲ 3.7
9	世の中に影響力が大きい	19.6	16.1	▲ 3.5
10	福利厚生が充実している	19.2	23.7	▲ 4.5
11	希望の勤務地で働ける	18.6	19.6	▲ 0.9
12	高いスキルが身に付く	15.4	17.7	▲ 2.3
	若手が活躍できる	15.4	17.0	▲ 1.7
14	優秀な人材が多い	13.0	15.5	▲ 2.5
15	希望の職種に就ける	11.7	16.4	▲ 4.7

※全 32 項目の中から 5 つまで選択
※上位 15 位を抜粋

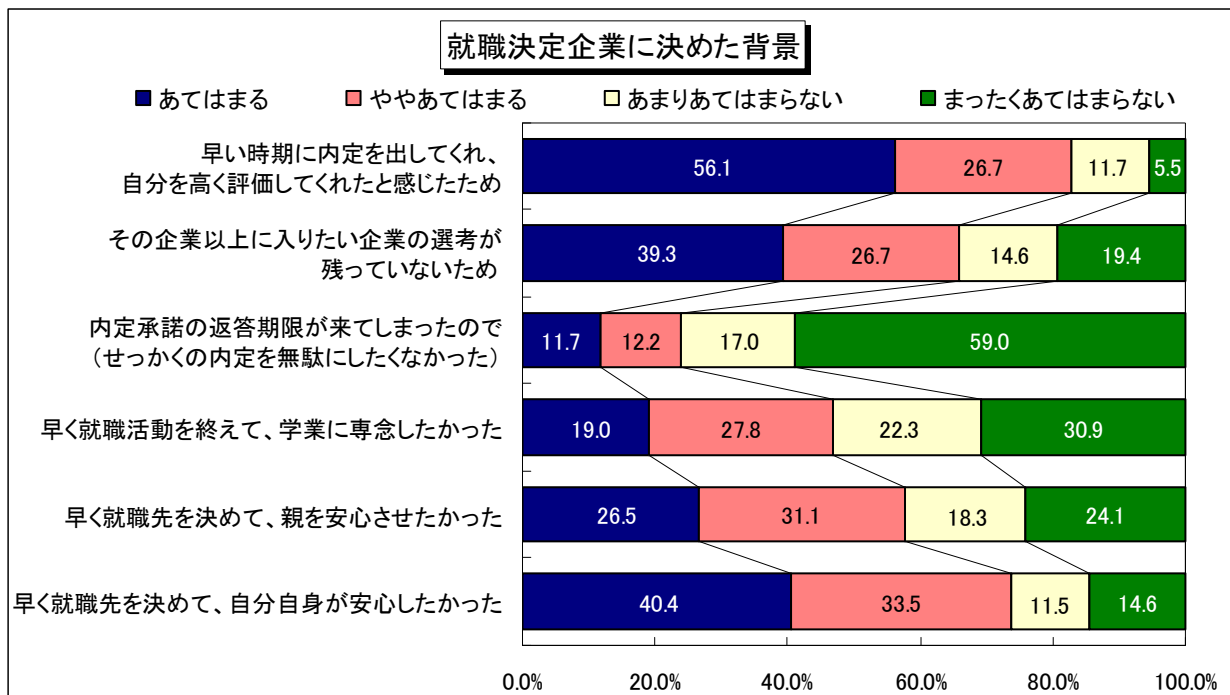
5. 就職決定企業の情報取得度

上の指標とあわせて確認したいのが、「就職決定企業からの情報取得度」だ。入社を決めた 1 社にもかかわらず「十分に得られた」は 31.1%と 3 割にとどまる。「まあ得られた」56.7%も含め、まだ十分でない内定者には、今後（内定期間中に）それを補うフォローが必要となってくるだろう。



6. 就職決定企業に決めた背景

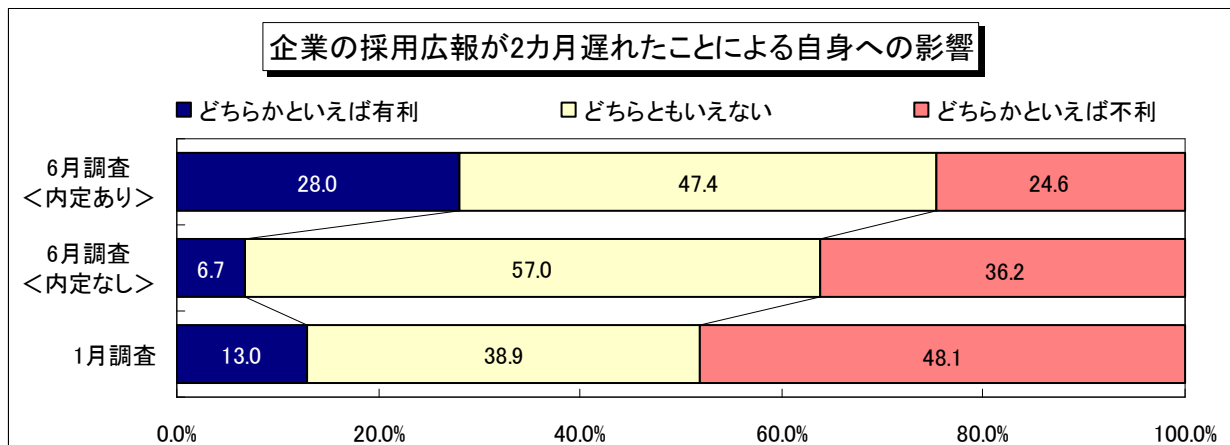
6月時点で早々に就職先を決めた背景を見てみると、「早い時期の内定で、自分を高く評価してくれたと感じた」に「あてはまる」と回答した人が56.1%というのが目立つ。早期の内定＝自分への評価の高さを感じているという意見だ。「早く就職先を決めて自分自身が安心しかかった」も、「あてはまる」という学生が多い。「学業に専念したかった」は少数派だった。



7. 就職活動開始が遅れた影響

就職活動のスタートが例年より2カ月遅れたことによる影響を、現時点でどう捉えているかを聞き、就職活動開始直後の1月調査（どう影響しそうかという予想）と比較してみた。1月は「有利に働くとする」13.0%に対し、「不利」が48.1%と、多くの学生が悲観的に捉えていた。

実際に就職活動を経験した上で回答した今回調査の結果は、内定の有り無しで大きく異なる。内定者は「有利に働いた」が28.0%で、「不利」が24.6%と、有利に働いたという感想が多い。一方、未内定者では、「有利」はわずか6.7%で「不利」が36.2%。2カ月遅れへの評価は、その学生の状況にかなり左右されている。未内定者が不利に働いたと思う理由として多いのは、「選考までの期間が短く、準備が間に合わなかった」というものだった。



■就職活動に関して思うこと (内定者)

- 事前に言われていた「厳しい戦い」のようなイメージと違い、自分があるかどうかを確認していく作業がメインだと感じた。 <理系男子>
- いかに情報に振り回されないか、が大事であると感じた。「とあるセミナーに呼ばれないと内々定は得られない」といううわさが内定先企業にあったが、実際はそのようなことはなかった。 <文系男子>
- どの時期から始まるかは重要ではないと思った。どの時期から始まろうと、きちんと計画、作戦を考えることが重要だと思った。 <文系女子>
- とても楽しかったが、傍目で見ている文系はきつそうだ。理系のほうが需要がありそうなのに文系の方が相対的に多いので、電車で学生を見ていると何か不憫に思えてくる。 <理系男子>
- 焦ると、受ければどこでもいいやってなってしまう。 <理系女子>
- 就職活動の期間が2カ月遅れたことは、確実に不利に働いたように感じた。説明会の日程や時間帯がかぶってしまうことが多く、諦めざるを得ないことがしばしばあったからである。 <文系女子>
- 複数内定を得たが、最終的な就職先を選ぶのに苦労した。自己分析や企業研究は内定を取るためだけでなく、自分の進路決定において重要であったことを最後の最後に気付かされた。 <文系男子>
- 今の時点で内定をもらうことができたが、このまま就職活動を辞めてしまってよいのかとても悩む。 <理系女子>
- 正直、もっと幅広い業界を見たかったが余裕がなく、それだけが唯一の後悔です。 <文系男子>
- 就活中は本当に辛くて、体重も減るし夜も寝れないしで体を壊しかけたこともあったけれど、今となってはとても良い経験だったなと感じています。けれど、二度とやりたいとは思いません。それほど大変でした。 <文系女子>
- 内定を頂いた時、嬉しさと達成感で「終わったー！」と開放感でいっぱいでした。しかし、人事の方に言われた「これからがスタートだからね」という言葉が強く印象に残っています。そのおかげで、毎日のように新聞を読み、授業ではいかにこれから仕事につなげられるかを考えながら受けています。 <文系男子>

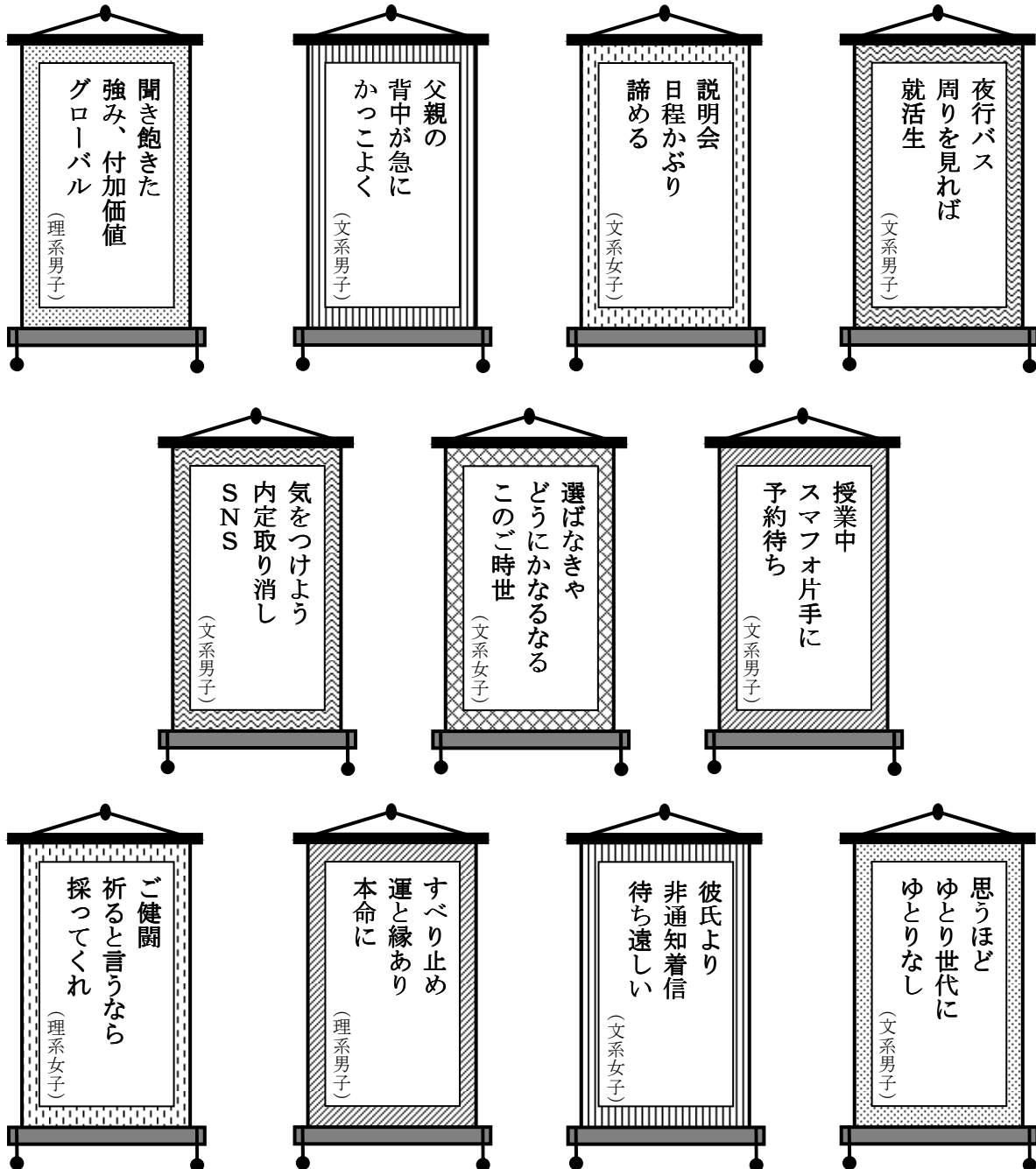
■就職活動に関して思うこと (未内定者)

- 周りが教育実習で、選考が進んでいないことを喜んでしまう一方で、一進一退を繰り返している自分について考えてしまったりなど、気分が落ち込みやすいです。友人などと情報交換や話をする中で楽になりますが、甘えすぎないよう頑張りたいと思います。 <文系女子>
- 思っていたよりも厳しいものとなり、精神的に厳しすぎると思う。社会は厳しいとは言うが、そういう人はこの厳しい就職活動を経験していないのではないだろうか。 <文系男子>
- お金の面で本当に苦労した。どの企業もWEB説明会を増やして欲しいです。 <理系男子>
- 自分自身どのようなポジションに適性があり、それを踏まえどんな仕事をして社会に貢献していきたいのかということが選考を通して見えてきたと思っている。自己分析も行ってきたが、それだけでは見えてこないものが選考を受ける中で見えてきたことは、大きな収穫でもあった。 <文系女子>
- 周りから内定が出たという声を聞く中、自分は未だに内定が見えないので、正直なところ焦っています。卒論もあるし、3月に卒業して4月から働けるのか不安です。また、内定をもらった友達が、内定先がブラック企業だということをネットで知って内定を蹴ったという話を聞いて、なんだかなあ…と思ったこともありました。 <文系男子>
- 自分の進路を考える時期なのにマスコミの氷河期、という煽りがひどいと思う。間接的に就職活動を辛いイメージに持っていつってしまう現状があると思う。 <理系男子>
- 企業規模に関係なく精力的に活動しているつもりでも、やる気がないと言われてたり、高望みしていると言われる、色々言われてしまう。 <文系男子>
- そろそろスーツがきつい時期になりました。熱中症になる前に、ぜひともご縁のある会社を見つけ出したいです。 <理系女子>

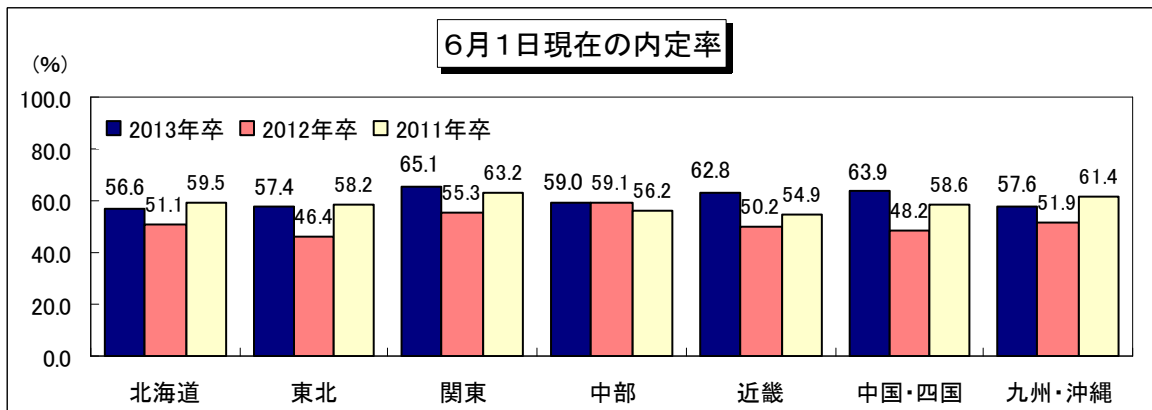
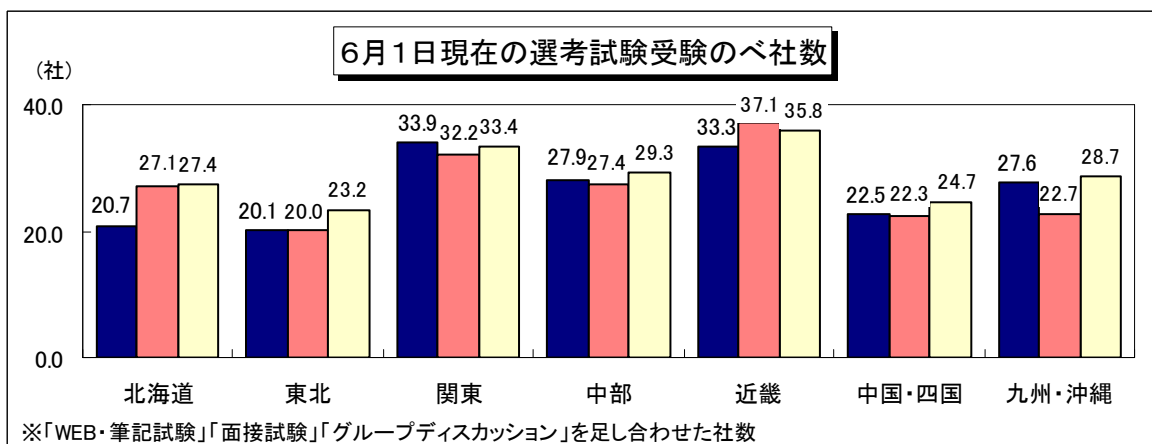
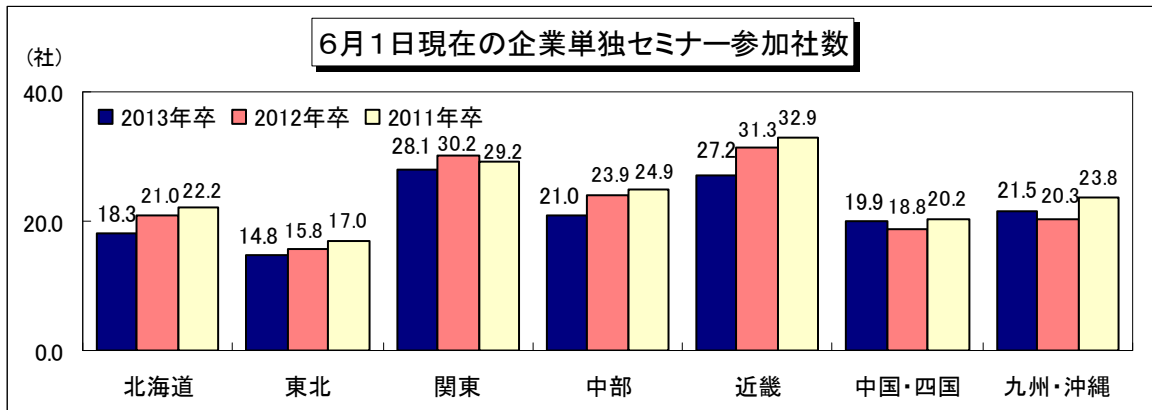
8. 就活川柳

就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 586 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

今期も、厳しい環境下で懸命に取り組む就活生の日常がうかがえる作品が多いが、それらに混じり、「就活勝者」ぶりを感じさせる上目線のものも散見された。スマートフォンやSNSなど、流行をうまく取り入れた佳作も多かった。



《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】 (人)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2013年卒	53	68	498	166	226	83	92
2012年卒	47	56	447	149	211	83	79
2011年卒	42	55	391	137	173	58	83

《調査概要》

調査対象 : 2013年3月卒業予定の全国の大学4年生 (理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答数 : 1,186人 (文系男子421人、文系女子314人、理系男子333人、理系女子118人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2012年6月1日~7日
 サンプル : 日経就職ナビ 2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。